제3호 1905. 1. 21.

明治卅八年一月廿四日第三種郵便物認可

朝鮮日報

定價　壹ヶ月金參拾錢　總テ前金ヲ要ス郵稅ハ別　一壹ヶ月ニ付金拾參錢

廣告　五號活字十九字詰　一行一日金拾錢　三日以上金七錢　五日以上金五錢　特別同金貳拾錢

發行兼印刷人　高生梅吉
編輯人　段塚[illegible]
韓國釜山港大廳町廿七番戸
發行所　朝鮮日報社

戰局觀

米國通信員ヱマーソン氏の満州露軍評（二）

夫れ軍隊を戰地に派するや、其地方人民の感情如何か戰陣の成敗に關する故も實きものなる事は軍人の心得ゆ可き要義なり。如何に不公平の觀察者と雖も今回の満州陣に於て日本の地形調査が露軍より遥かに勝れるものなるを首肯せざる能はざらむ。夫には何等かの理由無かる可らず。其理由と云ふは露軍は一人の間諜を放つ金を與ゆるか戰争を喰はせるかするを常とせるが日本は何物をも與へずして之を得る也。

此點は再び露軍が満州土人に對する措置を誤りたるものなるを現はすものならずや。予が満州の露軍に在りし時、奉天、遼陽、ハルビン等の數ヶ處に於て露兵の満州人を待遇せる有樣を見たりしに、此は満州人の道德を以てしても基督教を以てしても實に惡む可きものたりしなり。

顧に軍事上の行動として人民の困難は敢て顧せざるものとしても、予は此の如き場合に遭遇する度に露軍は何故に此自殺的行動を奬勵しつゝあるや其將官等が假令へ一時とは云へ之を默許しつゝあるやを怪しみたりき。

彼の武府に於ける全く無益なる虐殺を初めとし露國の併呑政策の實行を惡む者は其領土をして繁榮ならしめんと欲せば善意を以て其人民を慰撫せざる可らずと云ふより外他に途なきを知れるなる可し。

見よや、日露戰爭の避く可らざるは誰しも想像せし末遂に開戰となりたる曉に於て散漫に積みたる露國軍隊の列を絶へず刧かせるものは是れ實に満州人ならずや其結果として其後方に戰列との連絡を保つ事に少なからざる兵力を割かざる可らざりし事は黒鳩將軍の前線に於ける戰鬪が第一次よりの敗北に歸せし所以なりとす。

此の如き手強き教訓を受けなば誰とても直ちに其方法を變ずるものなる可きも聖彼得堡に於けるツアールの重臣は全く此眞相を知らざりしが如し。

斯くて満洲人の態度の如何が益々露軍に大影響を及ぼし來るに及んで露兵の土人に對する行動は益々亂暴の度を増し來れり。彼の満州副王と稱せられし亞歷士夫の本陣に近接せる地方に於てさへも予の目擊せし處にては満州土人は只た露軍を怨むより外策の出づる處なき待遇を受けつゝあり（つゞく）

朝鮮狩獵案内（一）

美髯公

▲狩獵の好季節　今や狩獵の好季節であるから、母國好獵家諸君の手には、如何ばかり其銃穴が磨きに研かれ、其隼鳥の如き眼は何方の天に向つて注がれつゝあるであらうか。

▲狩獵地としての母國　然かも母國現時の狀態では、笑止や諸君が樂みの生命たる鳥獸類は、殆んど既に殺り盡され、之が嚴しき制限さへ附せられて、思の儘に打つ事が出來ず。數日遠足の狩り歩きに、雉子、鴫幾羽、鴨二三十位も獲て歸れば、鬼の首でも捕つたかの如う、鼻呼吸荒き揚々さはまだしも、其多くは貨幣打ちなどの窮策を演じ、躁惡忽ち露顯、末代迄の胡盧を殘す仕儀に立至る者も珍らしくない。

▲狩獵地としての韓國　之れに反して、朝鮮の鳥獸類の多さと云つたら、兎ても母國とは比類すべきものを見ざると共に、其狩獵上の規則さへ全然無制裁で、鶴を打たうが、夏季に發砲しやうが、一切御構へなしである。

鳥類の最も多いのは、秋から春末にかけての間で、同季節間、田、畠、沼、江、海到る所に、群遊飛翔する有樣は、其聲々、近きは夜半の嵐の襲來かと疑はれ、遠きは本所濟邊に蚊聲（但し聲の數の多き形容詞）を聞くが如く、畫に見し千羽鵆は、畫家が想像を逞ふせしものとのみ思ふて居たが、斯地では事實目前の景色として之れを見る事稀らしくないのである、余は常に、斯地では鳥獸狩獵のみを專業として發達せしめたならば、必らずや有益なる生産物の一として數ふるに至るべき事を熱心主張して居るもの、況して遊獵おやである。

▲遊獵の德　一挺の銃を肩にし、一頭の獵犬を伴として、一日野山を狩り暮らし、其獲物を肴に晩酌を傾くる時の愉快さは、功名富貴、天上天下何物か之れに勝るものがあらうか、其の心膽の勇壯を養ひ、及び身體を强健にする点などは、是れ亦た獵上觸得の長所とする所、況んや軍國民としての遊樂おやである、而して余が殊に母國の好獵家諸君に向つて、斯地に出征（遠征と云はず）を勸めやうとする理由は外でない今や日露の戰爭に際し、皇軍は豫期の如く連戰連勝の好果を收めつゝあるの時、其題たる朝鮮經營を進めるに就ては、諸君をして一歩たりとも其足に斯地を踏ましめ、斯土地の事情に親んで、愉々快々知らず／＼の裏に、各自が其仕事の一端を發見併せしむるの資に供させやうとするが爲めである。

▲以前の鳥獵　余が始めて朝鮮へ來たのは、明治二十六年十一月で、其頃には當居留地附近も殊み多いもんであつた、一寸絶影島へ行つても、雉子の二三羽、鴫の五六羽、釜山鎭迄行けば、鴨の四五羽や、鳩の七八羽位は殆んど欠かさずに捕れ、洛湖や東萊、龜浦邊へでも遠足したならば、歸路には何時も擔軍をして呻らせた、が鳥類が多いに連れて其値段も廉く、背首一羽六七十文、雁百文位で買ふ事が出來た、故に流石の好獵家連も、遠く迄行かずと目前に可なりの獲物があり又た廉く口に入れる事が出來たから、獵區域も稍々釜山鎭が下端位迄み止められて居たものである。

▲今日の鳥獵　けれども今日では、打ち手が非常に増加し、中には、擊鐵さへ引けば、鳥は向ふから丸に當つて來るかのやうに心得、獲物を見るや否や、遂て丶眼をツブリ、チヤンが正月の爆竹宜しくと云ふ風ま、アツチでもコツチでも音許ポン／＼させるから、鳥類も始終驚ろかされ通しで、危險を感じて來た爲めか、居留近邊には非常な減少をなして來た。

●本紙の特色

社説　本紙は韓國の實情を明かにして内地人の誤解を釋き併せて在韓同胞の爲めに我國力膨脹に伴ふ可き適切の措置を誤る無らんことを勸むる爲めに公平にして愼重なる言論を爲し以て我戰勝國民の對外策に資する所あらんとす

寄書　本社は在東京及東洋の各要鎭に散在せる我社友は勿論當時有名なる各專門家に囑して其寄稿を乞ひ天下有識の士に面して親く其聲咳に接するの思あらしむ

實業調査　此は是れ吾徒全人か尤も其力を致さんと欲する所にして内外貿易の趨勢、韓山内地の起業に關する實査報告を詳述せんとす

小説文藝　吾徒は此欄に於て韓國に於ける在來の朝鮮小説を飜譯紹介し韓國の人情風俗を寫寫すると同時に文中朝鮮固有の名詞及地名其他注意す可き語句は特に振假名を以て韓音を現し語學獨習の便に供し以て一異彩を放たんとす其他内地名家の小説講談等を連載すると共に米新奇の小説類を譯載す可きは勿論也

諺文週報　韓人の無智蒙昧にして僅かに教ゆ可らざるは言を俟たす之を開發誘導する爲には新聞紙を以て文明の風潮を注入せざる可らず本社は本紙の整理を俟ちて如上の附録を添ゆ

各地通信　本紙は尤も豐富なる通信機關を有するを以て微かに誇るものあり乃て東京電報に由りて内外の大勢を敏速に報道するおど及び内外各地の通信によりて詳細の記事を蒐集し得可きは勿論當釜山と尤も密接の關係ある長崎門司佐世保博多對州及び京城仁川元山木浦群山大邱馬山平壌發二浦鎭南浦義州安東縣芝罘營口天津等よは已に夫々專任の通信員を囑托し置きたれは各地に於ける大小の出來事は盡く本紙の記載に漏ることと無かる可し

商況　本社は專任の商況記者を有し釜山よ關係ある各要港乃商況を報道するを怠らす

本紙の体裁　本紙は内地の各新聞と同形なる十六頁形にして總振假名付入なれは此點よ於ても在韓の全業者に一歩を贏ち得たる者と信す

朝鮮稗史 林慶業の傳

浪嶼生譯

左に譯出するは明治十年日本參謀本部出版の諺文林慶業傳を印譯せるものにして此は純粹の小説には非ざれど朝鮮此種の稗史亦少からず此を我邦にて印行せるもののあると雖も本邦人の諺文を解するもの實に少なき爲に今日に至りては此種の出版物あるをさへ知らざる人多し今此を譯出續載して聊か朝鮮文學を觀るの料とせんとす

（二）

東洋「バルカン」半島を以て目せらるゝ我西隣友邦たる韓國は今や我れの高義に浴して其の體面を存し其の基礎を固めつゝあり然かも我の此の半島國に對するの高德は彼れ兇暴なる露國の詐術も去て形跡を止めさるに至りぬ。

此の如きの東亞半島國は往古より惰弱腐敗の國民をのみ生ぜしめしか將た又た有爲の人士を出しゝ經濟ありしか、之れ等の跡を探り之れ等の口碑を聞くに半島國民も之れ等の奇傑は古昔敢て少なしとなさゞるなり此に於て余輩が往古よりの此の半島國なる奇傑中の奇傑林慶業傳を譯するに先て一片の情彼が地下に埋沒して恨を呑み永眠しつゝある處の靈を慰藉せんと欲す然かのみならず惰弱腐敗の國民中尚此の人ありしおとを社會の人士に介せんと欲するのみ

頃は明の崇貞末に忠清道忠州達川といへる處に住居したる人にて姓は林といひ名を慶業といひける慶業幼少の頃より學問武道に心を入れ勉勵せるより父母も大に愛し居りしが慶業年十歳の時父は果敢くも此の世を身まかりぬ親子の愛、慟哭の情、止むなきも野邊の送りをすまし三年の間亡父の靈を吊ひしのち、母と幼稚なる弟四人を共に農事を勵みしに家産饒富となり母に事て益々孝に何事も禮節を以てせしにより親戚は更なり幼老となく皆な慶業か節行の程を稱讚しけりとなむ、慶業常に此の如きを以て彼の言にも凡そ人の世上に處するには忠孝を根本と考へ仁義を省み學問と人力とを參考とし孔孟顔曾を日々法の如く爲し、人君に仕ふるに及て康衢烟月の太平を唱して經綸すへしと或る時は亦た若し亂世に當ては孫吳の六韜三略を修め刀を携へ戰場に功勳を樹て名を竹帛に殘し面を凌煙閣に顯はして天晴れ大丈夫たらんとする雄心勃々たるものありたりき（つゞく）

●出征軍人の雅懷

出征近衛騎兵矢橋良胤氏より當港の總田八十八氏へ宛たる書信の中に左の如き雅懷ありとて全氏の寄せられたるを茲に採録す

（前略）貴什數句おもしろく拜見、僕もまたかゝり穴の消ゑがてにして雪の陣おは今夜の對戰に候（第一軍司令部にて良胤）

勅題　全

攻めとりしあだのとりでの山よして、はるかにあふぐ初日子のかげ。

近詠

劍戟のひゞきのたより絶えはてゝ靜れ霜寒く夜は更けにけり。

大君のみ楯とわれはますらおの仇の矢玉に何かたふれん。

●韓人乃太平樂

韓人日本人の臨部に箸のみを使用する狀を見て竊かに揶笑して曰く、見すや日本人は壬辰の役に敗戰したる際の媾和條件により以來食事に匙を使用するを得ざるの不自由なる態をと▲又た曰之、日清の構戰は日本人戰勝を揚言すと雖其實日本人の敗亡に歸したるものなりし當時日本の大兵八道の野を掩ふて通過したるもの平和克復後に皆りて一人の歸來者を見ざりし證佐を奈何せんやと▲過般大倉組にて韓人夫を募集たる際の評に曰く、日本は到底露の對敵にあらず彼人夫募集は其名人夫と稱すと雖も其實日本敗戰兵士減少の爲め韓人をして之れに代らしむるが爲めに外ならずと▲韓人の吞氣千万なる太平樂を聞かずや

翻譯小説　佛蘭西騎兵の花（二）

英國　コーナンドイル作
日本　梅村隱士譯

◎幽鬱城の探險（つゞき）

此の不意なる命令は世良田中尉の爲には頗る喜ぶべきものであつたけれども實は少々折惡く來たものであつた、と云ふのは今晩の合饗としてゐる郵便局長の娘が……象牙の樣に色の白い髮の毛の眞黑な……不圖と中尉を戀慕になつて居たのだから、も少しお話をして見たいと思つたからだ、もう而し鞘を離れた劍だ、血を見る迄は靜かに手に握つてゐる譯に行ぬから世良田中尉は其乘馬なる片帆と云ふ駿馬に跨つて一人寂しい旅に上つたのである。

此朝の世良田中尉の武者振りと云ふものは此地方の人民が始めて見た華やかな且つ勇ましいものであつて、朝の霜の解けやらぬ中を中尉の乘馬の片帆が眞黑の前足を曲げて一驅け毎に旭日の光りに輝やいて行くのは見事とも何とも云ひ樣が無つた。

世良田は此時二十五歳の血氣盛りで佛蘭西騎兵中の最も精騎であつてそして有名な劍法家である、其制服は（十旅團の、滴る如き水色の上衣お赤條の這入つたズボンで、其通行する時ば村の者が走り出すと云ふのであつたが其内の婦人は其方に向いてそして男子は反對の方に逃げると云ふ樣な次第で、其朝ライゼンバークの村でも家の窓毎に美しい眼が覗いて居て、も少し誰かが驅げつて見れと云ふ樣に見えたが、騎兵進發の途上彼は手に唾して手綱を打振りつゝ、道筋を勝地に驅るより外に何の用があらうか世良田は街を離るゝと天には冷たく輝く太陽の外に一片の雲もなく、地は見渡す極り果もなき荒野の雪である、其中に處々に疎らの人家が見ゆでもないが、三ケ月以前に那翁の大軍が通過した後であるから其等に田舍の村々がどんな目に會つてゐるかは想像されるだらう、此地方の人民は最も佛蘭西の兵隊を歡迎するのであつたけれども、那翁の親兵丈が荷車を持つてゐた丈けで百萬の兵は皆な思ひ／＼に其途中の人家より徵發して行つたのであるから、今世良田の眼に一匹の家畜も見へず一條の烟も人家から立登らないのを見なんだのも別に何の不思議もない譯さ。

其日の黄昏に世良田はシャルフェルドと云ふ村に着いたが、それから那翁皇帝が七萬師團の歩兵と共に冬籠りをして居るホネキロード村に眞直に行かうとする途中になつてからは大道は馬車や荷車で軋り合つてゐるのであつた。

此處迄來ると其中を驅け抜けやうとするのは大なる困難で我聯隊本部の所在に達するには大抵の時間を費す事では無からうと世良田は心配した。

その上に此地方は非常に深い雪で以て馬の足が半分程は埋まるから、それを注意して拔足して進むのであるから捗らない、幸にして漸く一方に近道のある處迄來たのだから世良田はほつと一呼吸をついた、その道は楡の林の中を北の方に曲つてゐるので。

その道を少し行くと其處に小さい村があつて騎兵第三旅團の一分隊が舍營してゐた。此旅團は後に世良田が旅團長に爲つて指揮したのだ、其内の一軒の家の前に一人の丈高き青白い顔の士官が、いや士官と云ふより寧ろ學校を出た計りの僧侶と云ふ可き風采で鬼とも組んず荒武者を叱咤する士官とは見えない一士官が丁度馬に乘らうとしてゐる。

世良田が其前に來て馬の手綱を引絞つたのを見て其士官は。

『今日は結構な天氣です』と挨拶した、世良田も亦。

『今日は、僕は第十旅團の騎兵中尉世良田一雄です』

と答へた、すると其士官の顔色が世良田中尉なる名を聞き知つて居るもの丶樣に見へた、而し夫も其筈世良田が六人の勇士を相手にして決鬪に勝つた話は誰とて知らぬ者もないから。

『私は第十二旅團の龍野少尉です』と士官は名乘つた。

世『近頃隊に這入つたのですか』

龍『一週間以前です』

釜山鐵道　出發時間表

[illegible]

朝鮮日報

社說

吾人の朝鮮經營策（第三）

（韓國の經營には何時も精力が足らぬ也）

日淸戰役後に於て我國は一度韓國政府内に大勢力を占有したれば此際に於て所謂る韓國經營の地盤を鞏固にするを得可かりしが其後露佛兩國外交家の巧妙なる手段に由りて其基礎未た固からさるに突き崩されヌラリ〳〵と押し潰されて多くの計畫と希望は有也無也の裡に葬り去られしならずや。此拙劣なる現象を呈し來りたるは果して誰れの罪ぞや、其問題の適例ならざりし爲めか其手段に缺點多かりし爲めか否左に非ず理窟は孰れも立派なるものにて其手段とて左程に拙かりしにはあらず、其實行に於て初一念を貫徹せしむ可き精力が足らざりしか爲也。何事件何問題と指す迄も無し孰れの場合にても一を行はんとし遂げ得あり、他を爲さんとして面倒なれば直ちに之を捨つる事を何の惜しとも思はず朝變暮改、皆々生煮の儘に打捨つると云ふ遣口が此失態を來したるものなれ、彼の露國の如く問題は孰れも我田引水的にて天下の公道に於て許すべからざるものすら何の臆面なく、ドシ〳〵遣り付けると云ふ精力根氣に於て欠げたるが爲也、彼露國が爲すが如く無理非道に押し通すこと云ふ側に於て正常に得たる根氣と精力あり一事一業をも經營せんとせず常に一面を見て多少の物議を生ずる場合なりと雖も斷々乎として一念を徹し目的の彼岸に達するの決心なきに此の如き世界の嘲笑を惹起す原因とはなれり、其の失態の一原因は經營上の熱心が足らざるが爲に根氣と精力が全然皆無なりしが爲ならずや。一時世間に喧傳せられし長森案の成行きは如何に、此は極々近き一例なるが既往の事多くは此傳にて雲散霧消せしならずや、斯くても朝鮮を保護國と呼ばんとし、屬國たらしめんと欲するは礎なき家を建つるが如し、砂の上に濺ぐ夕立の如し、何の爲し得る處ある可き。曝我國民は戰爭には遂に勇壯なる國民なり精力もあり根氣もあり而も外交の折衝、事業の經營には此の美徳を欠げるは何の故ぞ、現に日露の戰役に於て費せる精力と氣慨は移して以て今後の朝鮮經營に施す可らざる、既往は追ふも及はず、我邦朝鮮扶殖の爲に再び戰端を開き再び戰勝の實果を收めて茲に再び朝鮮に於ける勢力の恢復を獲得せんとするの今日に當りては其經營上に於て前車の轍を踏まさる事、是れ肝要の事ならずや、今朝鮮經營の第二期に入らんとして新問題新事業勃興の時に際し、吾徒が言を爲して我當局者及民間の當業者に望む事此の如きもの豈に無益なりと云ふ可けんや。

雜報

近き將來に於る帝國の新艦隊

旅順口其他にて戰利品に歸せし軍艦は之に修理を加へたる上は一大艦隊を組織するに足る此際速かに引揚を了り大修理を加へて之れに征露殊勳の海將の名を村し以て帝國の新艦隊を組織するを緊要なりと思ふ左に新艦隊の艦名組織を示して讀者茶話の一材料に供す

旅順口鎭守府所管帝國軍艦

艦名（舊名）	艦種	噸數
東鄕（レトウヰサン）	戰鬪艦	一二、九〇六
上村（ペレスウエット）	同	一二、六七四
出羽（ポベーダ）	同	一二、六七四
瓜生（ポルタワ）	同	一〇、九六〇
三須（バーヤシ）	裝甲巡洋	七、七二六
柴羽（パルラタ）	巡洋艦	六、七三一
片岡（ワリヤク）	同	五、六〇〇
島村（グレミヤシチー）	裝甲砲艦	一、四九二
細谷（ラスボイニク）	砲艦	一、三三四
山田（チヤギツト）	同	一、三三四
但馬（サビヤカ）	同	一、三三六
林（ボーブル）	同	九五〇
高橋（ギリヤク）	同	九六三
佐伯（フサドニク）	同	四〇〇
淺羽（ガイタマク）	同	四〇〇
中山（ホエーオイ）	驅逐艦	三五〇
廣瀨（ブヂテリヌイ）	同	三四〇
有森（シーリヌイ）	同	二四〇
江副（ストロシエオイ）	同	二四〇
齊藤（ラシヤースチイ）	同	二四〇
永田（レジテルヌイ）	同	二四〇
白石（原名不詳）	同	二四〇

（備考）艦名はボーナル以下は戰死將校の姓を取る

合計	
戰鬪艦四隻	五万七千三百十四噸
巡洋艦三隻	二万九百五十七噸
砲艦八隻	八千百〇九噸
驅逐艦七隻	二千九百噸
計二十二隻	八万八千二百八十噸

右の如く堂々たる大艦隊たるを得べし征露戰勝の紀念として誠に好個の事ならずや

鴨綠江材木の狀況

朝鮮實業調査

一時世の耳目を惹きたる鴨綠江上流材木は今は我軍隊の占有に歸し到底個人の伐採を許さざる事と成り志岐組の如き一昨年秋來萩原書記官の斡旋盡力によりて日韓義盛公司より韓國政府の特許權を買取り資金を投じたりと稱せられ居る者も今は全然見込を空ふする事と成りたる如きは軍國に關し止むを得ざるものあるへしとは云へ個人の權利を○○せらるゝこと斯の如くんば誠に氣の毒の次第と云ふへし△同材木は目下我○○にて伐採する模樣にて工○○の一部は續々派遣せられ居れり▲從來露國か同事業に從事せし當時は露國兵營の賊を指揮して伐採せしめ翌年三四月頃解氷を待つて之れを筏に組み立て流下し居たるものなりと▲昨年五月以降○○部にて伐採流下の材木を押收せしもの數百本以上に及ひしか昨秋民政署にて審判し淸韓人の所有權明白なる本字號の印ある筏に限り相當の代價を仕拂ふ事となし居れり▲鴨綠江流下筏材中に本字號は曾て若くは團体にて伐採し其切口に自已の符號を刻み三百乃至五百本を集めて一組の筏となしたるもの雜字號とは本字號の筏を組み立てんとして堆積しありたるものか解氷の爲め等により各地より一時に押し流され來るを待ち隨意に拾ひ集めたるものにして其字號一定せざるものを云ふ▲是れ等流木は上流の地に在りて沿岸の淸韓人へ僅々二三十錢位の拾ひ賃を支拂ふて之を買入れ安東縣大東溝等へ搬出して三圓内外に賣捌かれ居たる者なり▲一昨年の如きは雨量多かりし爲め十万本以上の流木に達したりしと稱せらる▲邦人の從來斯伐木業に從事せしと稱せしものは僅に此流木即ち雜字号の賣買取引に從事せるに過ぎさりしなり▲彼露國の森林會社及び義盛公司も其實は矢張り此流材に從事し曾て伐木に專ら雜字号の收拾買入に從事せしものなり▲伐木料は從來之れ無かりしも之れを要せさりし代りに淸國領に於ては義州の下流壹里のマスタイ韓國領に於ては義州城外にて各筏の檢査料及び稅金を徵收せられ其領收證を持て安東縣大東溝に至り之れか取引を爲せし由▲其利益は檢査料稅金人夫賃其他諸費用を差引き極内輪に見積るも七割以上の純益に及びたりと云ふ▲是迄森林伐採事業に關して團体若くは會社を組織し淸韓政府より伐採の特許權を有し居れるは淸國領にて木植公司、馬賊隊長古元韓國側にては露國森林會社及び日淸義盛公司（日淸韓三國人共同事業）にして志岐組か權利を買收したりしは即ち是なり▲過去每年鴨綠江より搬出して安東縣大東溝其他の市場に取引せし材木の總額は壹萬筏以上に出でたる由假りに每筏三百本と見積るも其總計三百萬本以上にして尚は從來の如き程度を以て伐採を續くるも今後四十年間は優に經續するを得べき見込なりと云ふ▲然れども該材木の全部は總て我○○の占有に歸したる安東縣大東溝及び其他向地天津芝罘牛莊等は之れか爲め頗る少なからさる影響を蒙むるに至れりと云ふ（白馬山將調査）



國歸の妻夫ルセッテス

再び釜山埋築會社に就て

（記者曰く）京釜鐵道の開通以來渡韓者の數日に殖えて釜山の地の發榮を極むるは一に日露戰捷の致せる結果なるは言ふまでもなきが航海濫船の釜山港に錨を投ずると共に眸を放ちて眼底に映ずる一異彩は我居留地北濱地先の海岸埋立地ならんか、遠く之を望んでも寄港船舶の利便を想ひ亦た親しく實地に就て區劃整然秩序亂れざる一二三等道路の完成せるを觀れば經營者の苦辛慘憺たる勞苦と其成效の名譽あるを賞揚せざるを得ず將來に於ける釜山の殷盛は關釜間連絡の滑に因つて此事業に基因するならん也

△最初の設計　日韓官衙の補助を受けず斷然勇を奮つて此計畫の衝に當りしは目下の理事たる取締役たる熊本縣人佐藤潤象氏（談者）及び同縣人高島鷲郎氏なり去る三十一年の設計によれば埋立面積廿萬二千四百八十坪方米突、内道路敷二萬九千二百七平方米突、殘面積十七萬三千四百五十四平方米突、此工費合計八十九萬六千五十三圓五十六錢、預購費十萬三千九百四十六圓四十四錢、總計壹百萬圓、頗る徹底して韓廷に起工の特許を得たるは實に三十三年十二月一日なりしが此時に當て

▲我邦經濟界の波瀾は著しく變調を呈し殆んど一頓挫を來して徒らに卓上の空論となり了せんとせしに當事者熱心の効果は次第に極点に達し茲に會社組織と變更するの端緒を作りたり從つて設計に幾分の訂正を要し、埋築面積は四萬九千百九十一坪、之を第一第二の兩期に順序を分ち第一期は總面積三萬千六百三十五坪七勺五才となし資本總額は二十萬圓（後十萬圓増資）に改め更に二十五萬圓の社債を募るべく三十五年七月廿五日會社成立登記を濟ませ其株式組織としては

△資本金五百圓　に定め基本金に不足を告ぐる時は埋立土地を賣却して之が融通を計るに決し役員として當撰せるもの（取締役會長）大倉喜八郎（取締役理事）佐藤潤象（取締役技師長）岸本賀吉（取締役）高島鷲三郎（同）本多芳（監査役）大野龜三郎（同）渡邊和太郎氏等なり、同年七月二十九日起工に着手せしか使役せる人夫の如き一日平均日本人約二千人、韓人約九百人、監督勵行夜を以て日に繼ぎ豫定の如く第一期工事は昨年十二月に至り全く竣工したるなり、事業の進捗蓋し豫想外なるべし、試みに株主の重なるものを擧げんか

△合計五百株と地價割合　（貳百株）大倉喜八郎（八十株）手島要（三十株）本多芳（二十株）佐藤潤象、大倉久米馬、渡邊和久太郎、高島義、佐々友房、岸本賀吉、大野龜三郎、佐々松賢、（十株以上）古莊嘉門、中山希賢、山口豐吉氏等にて埋立地價始めの割合は一等一坪金六十圓、二等五十五圓、三等四十五圓なりし

▲竣工の今日に至つては一坪の價格七十圓に相據るか如し　竣成本年の初めより埋立總坪三萬千七百七十四坪より、賣買豫約濟一萬七百十六坪、開戰以前は其豫約しも中頃途絶えて諸般の觀ありしに反し遂ふて購買者現はれ來ると

●電燈會社の事業擴張　草梁の膨脹も埋立結果として當地電燈會社は事業大擴張の計畫中にて、線路及工事費等は既に調査濟となり未だ今其現在と擴張すべき電力を掲ぐれば左の如し

現在馬力　百二十馬力
擴張馬力　百五十馬力

殆んど倍數以上の大擴張にして其費途總額は大略八萬圓にして高壓電氣を用ゆべき方針なりと、着手に就ては埋立地の家屋建築の盛におるべく、草梁方面の線路は支那居留地を經て延長すと言ふ猶ほ同社株主總會は本月中に開會する由なるも今回は提案せざるとの事也

●釜山罐詰製造所近況　目下男女職工二十餘名を使役し日々二千個の牛肉罐詰を製造しつゝあり△各地よりの需要頗る增加したるに依り工場を增設し職工等を增備する計畫中なり△原料として製造しつゝある牛肉スープは需要者頗る多き模樣なるに依り特約販賣所を開業する由△新たに京城駐劄隊本部より同品供給方を通知し來れる由なるも當分器械を能く生產力に於て許さず追々右供給に應する事を決したる由

●[illegible]氏の談片　私の旅行ですか、別に新奇です、昨年十一月中旬京城を出發しまして當地に着致しました京城の政況ですか、一言にして言へば混沌です、若し長谷川大將が成功なかりせば亂階常數でしやうな、長谷川大將と内田公使の間に意見の衝突があるかと云ふのですか夫れは巷間の風說でしやう、左樣な疑は、機微の間にも見えません目賀田顧問の財政意見は目下頻りに調査中で各方面に渉て行届いて居るそうです、併し、實行となれば例に依て紛議百出でしやう一進會は相當の勢力あるが徒らしいです、會長は袁始炳とか言ふ元監察使とかを勤めた人なそうですが幾何の事もなし得ないでしやう一體の政況を批評すれば、左樣サ、閥門の嫉妬傾爭でしやうな……

●兩本願寺の暗合　當港に於ける東西兩本願寺が常に兩立しながら相反目嫉視するは獨り内地のみにあらずして當港に於ても之れが現實を觀るは甚だ悲しむべき事、過日各派の協同によりて戰死者第一回追弔會に西本願寺の連中が頻出をせざりしは如何なる事情ありとするも追弔會を侮蔑したるものにして許すべからざる大事實なり抔憤慨する一派さへあり、東本願寺の意志も又追弔會の如きは一私事に關係なきにあらずして宗教家が失態者となりて行ふべきものなるに袂を連ねて臨會を拒むが如きは僧侶として採るべき態度にあらずと嘆じ居る軋轢更に熾んならんとするものゝ如し

●居留民の增減　昨年末に於ける釜山居留民の增減は左の如し

	增	減	現在居留民
男	四一三	二四九	六、五〇〇
女	三四八	一四三	五、三二五
計	六六二	四九一	一一、八二五

●流行病全滅す　夏季より多き時は一百七十名以上に上りし本地流行病も天然痘患者四名を殘せるのみなりと殆んど全滅と云ふべし

●水道稅の歳入豫算超加　本年度水道稅豫算は金二万八千二百四十一圓二十八錢八厘にして最近本月十日迄の收入は金二万九千二百三十六圓八十四錢五厘内金一万三千八百三十圓七十六錢は前年繰越にかゝれりと又卅六年度の豫算收入は金三万三千九百四十六圓余に上り豫算より超加するまと八千四百二十一圓の高額に達せり、是れ未として釜山居留民の擴張せる結果と見るを得べき也

●居留地稅の滯納　本年の居留地稅豫算は金四万八千九百三十一圓九十六錢一厘にして最近（本月十日）迄の納入は金二万八千九百九十六圓九十一錢未納額は實に金一万九千九百三十五圓〇五錢一厘の多額に達し居れりと言ふ

●卅六年度未納額　本年の未納高は別項記載の通りなるが、前年（三十六年）の滯納額は猶金千七百五十八圓六十四錢を出し居れりと

●下關の船貨近況　舊年末と正月とを眼前に控へ居る事とて大坂商船會社全市支店に於ける出入荷物取扱漸く頻繁を告げ中國航路に於ける輸出荷物の如きは運び滿載の有樣にして尚ほ此外神坂行きの米穀糖及び食料品行きの軍需品等頗る夥多なる由

雲影過眼

△旅順　陷落後は黄海は固より遠く印度洋上に鵬翼を振ふ勝たる浦潮の二艦寂として聲なし果然對馬海峽の密輸船拿捕頻々

△東鄕　大將の帷幄にありて智謀神算一世に儁なる島村參謀長も第一艦隊長と爲新なる海軍の大活動は那の方面より飛來せむ

△招魂　祭場を水師營に設け滿目飛雪の間祭文を讀み三軍聲を呑むと雖上莊嚴なる神彩の乃木將軍當日奈何の心胸ぞや

△鬼の　如き寇兵の中綠陰の花に似たるステッセル夫人旅舍室内一枝の花を見て遙乎腕間に挾む戰の花より華は也き情致也

△上海　露兵脱走問題淸政府の手を放れて他邦干渉の火の手微の見ゆ一葉落ちて天下の秋冷を知るべし危いか那對岸の國や

△露帝　詔勅を下して旅順の陷落を宣明す曰く彼等の壯烈は誇るに足る死者瞑すべく生者榮ありと嗚呼吾人推す世界も亦點む

△亦曰　我敵大膽にして熟練なれども露は強大にして從來幾回以上の困難に遭遇せり落膽すべからずと絶望の深や死よ卑屈し

△朕は　全露西亞と共に露されんとする全勝の時を信頼す神よ露の光榮を保持せよと彼れ猶聯共に頼る處なし洵に神なる哉

△廣瀨　武夫再び當處に來り閉塞を試む露の將士之を記せよとは福井丸船中の遺書軍神の猛烈は死後も敵膽を寒からしむ

△旅順　生肉の缺乏は當時仔牛一頭千留を過ぐ一兵豚の歩むを見て脱帽敬禮せりと噴飯の滑稽は異體絶痛の慘話を宿せずや

△我國　來遊のハリス博士東京の歡迎會に臨て日英米の同盟は世界の平和を維持すべしと然り武力の新に神の祭わる日本和

●韓錢相場〔十一月 十四日〕

[illegible]

(明治卅八年一月十四日第三種郵便物認可)

朝鮮日報

社告

弊社今般本紙發行致候に就は大方諸君の御賛助を辱ふし難有奉謝候然るに本社創立早々活字器械等未た充分に整理不致殊に豫定の附録頁數を減少するの已むなきに至り且つ紙面の體裁未た完備不致記事材料の蒐集亦意の如くならず之に加ふるに各地の通信尚ほ到着せざりしは頗る遺憾に之有候次よ本社支局の儀は左記の箇所よ設置をるとに準備罷在候

京城、大邱、下關、馬山浦、

賣捌所の儀ハ朝鮮各要地に設置致す筈よ候へ共目下の處大邱西門内朝日商會よ於て取扱ハせ申す事に致し候

明治三十八年一月十五日

朝鮮日報社

小說 戰勝 (三)

黑潮作

見渡せば晝にもあらず、夜にもあらず、輝く日輪もなく光る北斗星も見ねず、只薄明かき空の雲か霧かと見ゆ中を只一條の怪しき光りが喇叭形になつて照り渡るが見ゆ、あれは嘗にて見し探海燈の光りなるべし、富子は今名も知らぬ山の巓に立つて彼方の空を眺めて居ると波打際に娘の時子が甲斐々々しき看護婦の服裝をして母ある方を見も返らず徐々と歩み去るのが見ゐる。

「あれ、時さん浮雲ないよ、海に陷つたら大變だよ」

と、叫んだけれども、矢張り見も返らずにずいく\と波の上を歩いて行く。

さうすると自分の身体も何時の間にか看護婦の姿となつて何かの怪しき力によりて押しやらるゝ樣に時子の行く跡から波の上を歩いてゐるのである。

やがて時子の側に追付くと時子は母の手にすがつて。

「私今度看護婦になつてお父さんのゐらつしやる旅順口に行くの」

と囁く。

此時の富子の胸には夫の時枝大機關士が敵の捕虜となつて旅順口内に留められてゐるとの考が確に浮んでゐるのでそれでは妾も連いて行つて見れと時子の手を牽いて波の上を歩くのが何の不思議にも感せられないですいく\と行くのであつた。

「おやつ」と思ふと何處とも知し大砲の響が聞へる、それから大勢の兵士の突喊する樣子が只物の氣配で知られる。

此時富子は矢張り時子の手を牽いたまゝと或る禿山の上に立つて居る。芝居で見た樣な毛の紅い露國兵が十八計りもぞやく\と一方から出て來ると夫の民雄が東京を出た時の儘の軍服を着て座敷に置けてある家傳來の大身の槍をしごいて躍り出て來ると露兵の甲乙は銃劍を以つて民雄を突いてかゝる。するど一方より鐵男が月毛の逞ましい馬に打跨つて洋鉄の劍を打振つて出て來て露兵を一人斬り倒す、其後から一人の露兵が鐵雄を銃劍で突かうとするそれを父の民雄は知らないで他の奴を相手にして戰つてゐる

「あら浮雲ないよ鐵ちやん、浮雲ないよ、もし鐵男が殺されますよ」

と叫んだ自分の聲に夢さむれば早や消ゑなんとする寢室の短火幾近ふして花なき庭を吹きすさぶ夜嵐が雨戸のあたりかたかさ音さするのみであつた。

あゝ夢であつたれか、あんまり考へて寢たものだからこうく\夢にまで見てしまつた鐵男と時子は邪の兩側に心地よげに眠つて父の歸つて來た夢で見てゐるのか何か物を探るらしい樣子にて可愛い兩手を布團の外に出し、動かしゐる。

「あゝ、夢であつたけれども生きてゐらつしやるならせの夢では無からうか、それともあまり其事計りを考へて居たから夢にまで見たのではあるまいか、築地の兄さんがあゝ仰しやつたからもしやと思つた爲の夢ではあるまいか、それども兄さんもあんなに言つてゐらつしやつたからどうかし生き殘つてゐらつしやるのでは無らうか、明の朝になれば益々其事が解ると云つてゐらつしやつたが早く夜が明けて呉れば好い、そして電報が來て生きてゐらつしやつたと知らせて來れば好いが」

夜は明けんとしてなほ明けず曉の風霜を吹いて隙き間洩る夜風身よ泌み渡る。

●珍聞お醫者樣の閉口 一昨十九日は例の檢查日とて電氣樓の誰れ彼れ次で第一いろは樓の松ちやん千ちやん小さんちやん晴れの飾りの白粉ベツタリ臨とておゝ恐や松王ならぬ檢分の役の前に躍り出で例に依つて例の如き消毒を受けゐ、婦しやと歸るさにさても不思議や今日に限きつてキツイ搖さ初めはさ程に思はざりしも稍りく\て戀の富士轉ろびまろびてうめき叫べはコハ何事と驅け來る人々樣子は知らねど危急の場合ゐ只狼狽へ騷げばあたい抱かれて行にたいわと三十年前の老妓まで抱かれ背負れて歸りたる後に不審は晴れやらぬ樓主の面々はどうやら譯せぬ今日の往診者しや御待者の間違ひで肝心の商賣物傷つけられたのではあるまいか一大事と膝推詰めて醫者殿に喰てかゝれば醫者殿は喫驚して兎も角もと消毒藥改めみるにコハ如何に三クロヽホドを溶解すべき石炭酸を五フロセンとはしなしたりと青息吐けば皆々怒りの聲あらゝげコサ聞きエ一人五圓さして總計拾人積つて五十兩百人なれば五百兩千人なれば五万兩皆な此方殿は絶體絶命願を疊みに推し付けて閉口頓の損害なや醫者殿どうじやと取詰られ醫者樣は僞醫體の頻に詫言を言ふてゐるとはいやはや珍聞とも漢闘とも申樣なき事共なり

●廓だより(廿日) さても其後安樂亭の若蝶姐さん斉羅を切つて奎齋の大將軍は吾れてそと鼻ゐ懸けるを小猾なコツパれとドル旦の嫌いなく引張るやら咬みつくやら祥樓の小蝶姐さんが向を張つてドル旦非れて何時も喧嘩沙汰とはめでたき限りに候、神風樓の初音さんは七十五圓卅五錢王庫の楊高を鼻にして是れも彼のお方があればろ女そとも何んとも云はず毎日毎夜御酒やら御飯やらを神棚に獻げてハツく\一樓の一力姐さん一時廓の大臘なりしに昨日今日の弱り方は他の見る眼も氣毒に而、西町は三丁目鉄に縁わゐ某旦は日韓樓の或る韓妓に深くなり韓人の服裝に身を窶して女房の難見る馬耳東風とは情けなしとの噂高く候

劇場案内

▲幸座 は前日の續きにて開場の筈

▲松井座 は久しく大和山一座にて打通し來れるが本日より鮫子鳥の實錄に改め狂言大序より敵討迄をし中狂言は前日の續きにて花々しく開場の由

魚市場(二十日)

一金六百三十五圓六十錢五厘 水揚高

相	場	
たい	十貫目	十二圓
あわび	同	十三圓
ひらめ	同	七圓
さわら	同	十一圓

以上

出發時間表

安東縣	九〇一五	三〇五六
軍浦	九〇三一	四〇〇七
富谷	九〇三一	四〇一六
水原	九〇九一	四〇三四
餅ノ店	一〇〇二	四〇四七
平澤	[illegible]	[illegible]
成歡	[illegible]	[illegible]
天安	[illegible]	[illegible]
小井里	[illegible]	[illegible]

廣告

廣告

一、鯛でんぶ
一、鯛肉

右當會社製造ノ鑵詰ハ原料新鮮ノ生鯛ノミニシテ品質精良色澤純白能ク貯藏ニ堪ヘ一ノ欠點ナキ佳肴品トシテ發賣以來大ニ好評ヲ博シ御庇蔭ヲ以テ日ニ月ニ御購需ヲ擴張スルノ光榮ヲ辱レ候段奉鳴謝候自今尚一層製造上注意ヲ加ヘ多少ニ拘ラス精々安價ヲ以テ御小賣可仕候間不相替御愛顧御用被仰付度願上候

追而本品ノ效用ハ
第一 衛生上無害能ク貯藏ニ堪ヘ甘味淡白最モ酒肴品或ハ御病人用ノ滋養玉ナリ
第二 携帶ニ便裝飾亦完美ヲ盡シ御旅行用或ハ御進物ニ適當ナル良品ナリ
第三 價格割直現品御實用アレハ論ヨリ證據良否直ニ判明スルノ良品ナリ

製造販賣元 韓國釜山港南濱町三番地 釜山水産株式會社 電話百〇九番

呉服太物類

確實正札 ニ而 硝子板 御卸小賣

其他各種

大惠呉服店（電話七十五）

京都産 クワ井 葱 水菜 荷着

右今回荷着仕候に付御需用の御方は多少に不拘御用命被仰付度候様奉願上候

釜山幸町三丁目郵便局前通角 松崎呉服店

陶器御卸商

㊂

美濃陶器業同組合の韓國の一手販賣なるよりも品質の堅牢にして安價なることは他店に比類なし㊂ます致しに利潤々精ひ扱取に切親は文注御の紙手た又すましえ換引と品他ばれな参持に内以日五は品の會商㊂

本店 美濃土岐郡泉村
美濃合名商會
物産
主任 山口精
支店 韓國釜山大廳町

藤井文平商店廣告

一毛布 一綿毛布 一タヲル類
一黄燐寸 一安全燐寸 一鏡類
一香油類 一實船印洋蠟 一石鹸類一式
其他韓人向諸雜貨
漆器類一式

弊店儀各位ノ御愛顧ニヨリテ日増盛大ニ赴キ候事深ク感謝仕候就テハ猶一層大勉强仕益々御愛顧ニ酬ヘ候間倍舊ノ御引立ヲ希上候

大阪市心齊橋通本店 野々村南號
南久寶寺町
韓國代理店 藤井文平商店 電話二四三番

大勉强廣告

英字正宗印
大奮發印
其他各酒類

右酒類大々的勉强ヲ以テ販賣仕候間遠近多少ニ不拘御引立御用ニ預リ度奉願候

富平町 山内支店酒造場

改良白髪染廣告

●白髪染
●赤毛染
チヂレケナヲシ

謹啓渡韓以來皆様の御引立ニ預リ日増繁昌致候事深く御禮申上候陳者私義改良白毛染發明に付數年來苦心致居候處今回愈々發明賣行仕候染むる時間は僅に二十五分間是は化學上有効ましく衛生上無害のものに御座候間御希望の御方ハ御婦人様と男子方を問はず雨天晝夜の嫌なく本町壹丁目の角伊村理髪店方へどんどん御光來之程奉希上候

釜山本町一丁目七番地 伊村理髪店

大黒製妙ふり出し

風引乃妙藥ぞいかに 大黒製ヘプリン丸
眼病乃癒く程きゝ乃ハ 大黒製精奇水
りんびとうーとうのちには 最新藥あり
病氣を惱ろゝあれ病氣乃爲めには大敵之良藥を撰んで買ひ給
安賣之隊長とハ 幸町ハ南濱筋 大黒藥店
賣り居る品ハかんでしと藥品ハ一葡萄酒化粧品寫眞用品一切工業用品いとくろふて品もよくて安ゐです
右の藥店御案内可申候
釜山港幸町壹丁目南濱通り 大黒藥店

開業廣告

印章 ゴム印

釜山 大廳町 文珠堂

勉强廣告 國府洋服店

非常勉强大安賣廣告

醫療器械 寫眞器械 化粧品 洋酒類 滋養品 晴色々 淺田飴 壽丸 腦丸 沃剝丸

其他有功賣藥一切

醫藥工業藥 其他寫眞用一切 珊瑚玉 線香 五種香 中將湯 ドクトリ丸 解熱丸 複方タルリン 健腦丸 胃活

右安賣大勉强仕候間續々御用命希上候

釜山辨天町三丁目柴田洋物店隣 上村藥舖

謹告

朝鮮日報ヲ始メ東京大阪各新聞大勉强取次販賣
外ニ日韓語學書賣捌
大邱府西門內 朝日商會
一追テ近々中ヨリ韓人向雜貨一式卸藥販賣開始仕候間御披露申置候

精牛肉卸小賣 其他雜貨種々 辨天町二丁目 山内商店

鶴の鑵詰 鯛でんぶ 城津産石鍋 諸鑵詰 菓物商 辨天町一丁目 すず源

東京御料理 麥とろ 南濱海岸通り あぞひ （電話二四四）

製品廣告

●ボールトナット ●スパイキ ●ナット ●リンプロシャ ●コーベル鋲船舶用 ●ボールト ●ワイシユボールト ●フイシユプレート ●コウチスクリユー ●ヂヅキボールト
其他鋲類一式製造
神戸市兵庫小川通五丁目 兵庫製鉄合資會社

營業廣告

礦山 紡績 水道 鐵工 鐵道 船舶 電氣 瓦斯 精米 製紙 建築 土木 築港 其他工業用品 諸機械附屬品
兵庫製鉄合資會社製品一手販賣所
販賣 神戸市兵庫西出町 鳥甚支店 電話二六〇番 電信略語シマ

鐵道用品 和洋船具品 建築諸金具 ペンキ油類 亞鉛板 卸 小賣
釜山入江町 鳥甚出張店

輸入貿易商 輸入品委託販賣 松前商店 電話二三三番

商船會社仲次 同回漕部 電話一六七番

會席御料理 仕出し 西町三丁目 春日 （電話一二三）

廣告

●醫料器械類 ●藥品類 ●賣藥類 ●洋酒ミルク
藥劑師 釜山本町 弓削靈藥館

屏風 フスマ 表具類一切 調進所 西町三丁目三番地 岡田松月堂

提灯雨傘製造 西町二丁目五十二番 扛儀三郎

寫眞師 釜山南濱筋 日朝寫眞館

家畜診斷 獸醫 中尾祐作 富平町十七番地 電話十七番

西洋料理廣告

各位益御清福之段奉欣然候降て弊店共四方諸彦之御愛顧を蒙り日増繁榮仕有難仕合ニ奉存候然る所近來物價も騰貴に及び料理も是迄通りにては出來兼無余儀一品の價格金貳拾錢ニ相定め候就ては爾來一層念入風味精撰仕候間何卒舊ニ倍し御引立之程偏ニ奉懇願候敬白

月 日 辨天町 西洋料理店 新堂 （電話貳拾七番）
幸町 西洋料理店 小倉庵 （電話百五拾番）
四方諸彦

至急廣告

弊店儀從來買物帳を使用し來たり處月末に至り仕拂の際買物帳へ記入以外の書き出しある事度々發見致し候條爾來弊店の買物帳を持參し來らざる者は勿論假令店員たりとも掛賣無用に付き弊店に於ては一切其の責に任ぜざる事に致候間此段廣告候也

釜山港幸町一丁目 園田時計店 電話二百十番

東京直仕入
はきもの たび類
斬新にして大流行品
特別廉價を以て販賣します
内山商店 電話二五六番

活版印刷 釜山南濱 日本堂

齒科診察治療時間
自午前八時至午後五時
但齒痛患者此限リニ非ラズ
西町三丁目卅八番地 深江齒科醫院 （電話二百五十二番）

●新座敷披露

開業以來四方の御愛顧を被むり日に評判もよしの三笠（く）引手數多の御贔負に額に立田の紅葉して御禮の言葉も後や先き引御地に馴久しく末の松やまかわらせ給ふ御引立を願ひまつるになん
此度建築せし數奇に構へし新座敷は潮にて四時の眺めに飽かしめざるは受合なりおのづと山水の景を一眸に收め新遊の御客をし春秋を問はず海陸の御客には料理の鹽梅よく價低廉な御注文の肴は一品たりとも差出さず之れ三笠の特色實なり
會席仕出し宴會其他御用命の程偏に奉希上候敬白

かき御飯
なめし飯
ゐもご飯
あやめ飯
れんし掛飯
むしも料理
會席御料理

三笠 管理